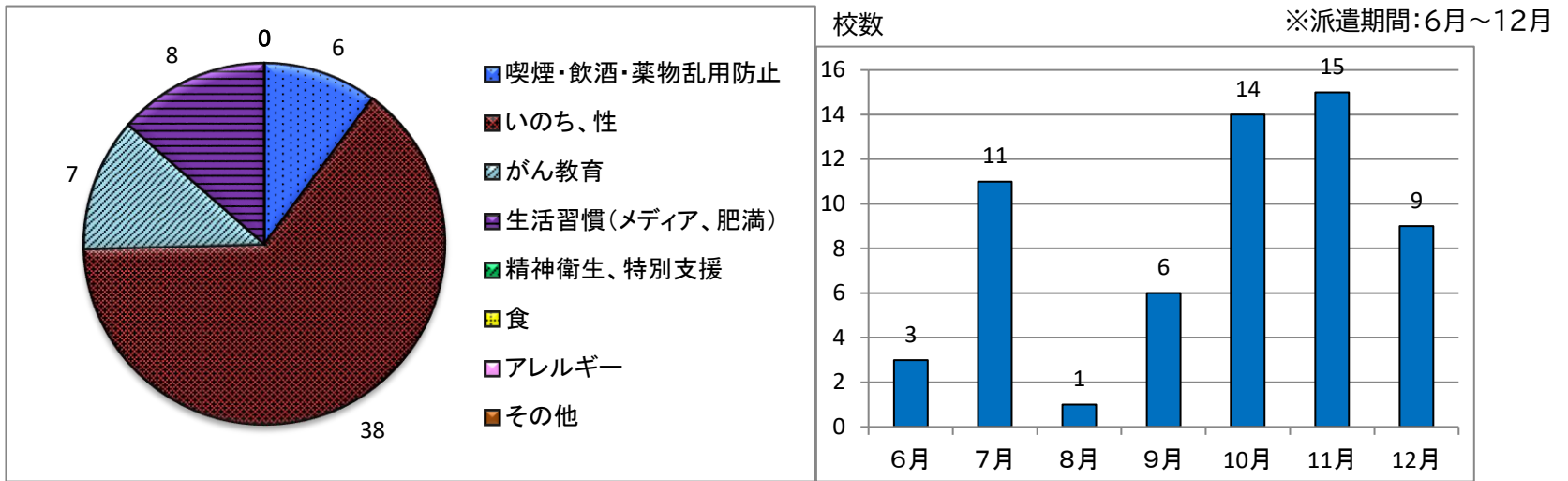
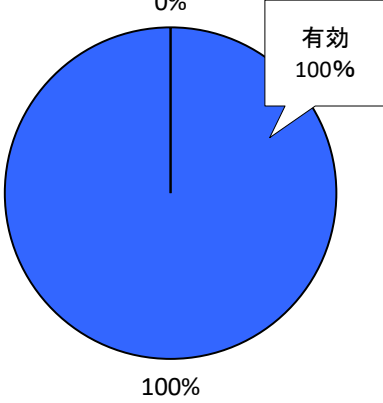
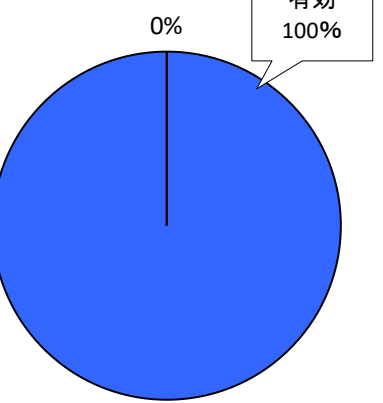
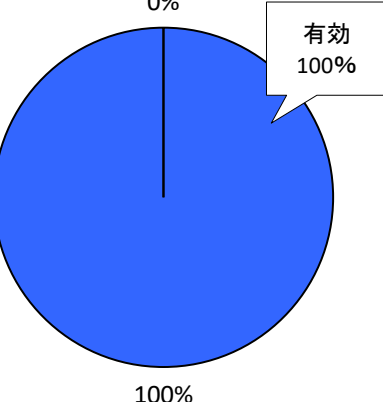


令和6年度 子どもの健康づくり連携事業 専門医の派遣実践のまとめ(一部抜粋)



実施校	専門医の領域	内容	対象	感想
1 小学校	放射線科	喫煙防止教育	5年生	<ul style="list-style-type: none"> ・たばこを吸うとニコチン依存症になってCOPDや肺がんになり、寿命が10年短くなるのがわかった。 ・お父さんが喫煙者で私は受動喫煙になっていると気づきました。お父さんには自分と家族の健康のために、たばこをやめてほしいと思いました。そのために、ニコチンガムやパッチを知ってほしいなと思いました。
	緩和医療科	がん教育	教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・「怖い」イメージだったが、治療が可能だったり、進行の予測ができたり、理解を深めることで「怖い」を脱却できることがわかりました。健康な今だからこそ「がん」を学ぶ意味があると感じました。 ・正しいことを知識として得ると、自分自身の健康保持にもつながるし、子ども達にも伝えること、支えることもできる良い研修でした。
3 小中学校	小児科	生活習慣とメディア	児童生徒保護者教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・スクリーンタイムが長過ぎると、運動不足、視力の低下、睡眠不足になるのは知っていたけれど、心にも影響があることは初耳でした。(中学生) ・家庭で話をするよい材料を頂けたと思います。同じ話でも医師からの話は、また違った形で聞こえただろうと思います。これからも話をしつつ、よい形でメディアと付き合いえたらと思います。(保護者)
4 中学校	産婦人科	性・いのち	2年生	<ul style="list-style-type: none"> ・「人」というのは、とても複雑な生き物だと思った。世界にはいろいろな人がいるから、面白いことがあれば苦しいこともあって、それでも生きている「人」はとてもすごいと感じた。 ・先生の話で心に残ったのは「自立というのは依存先を増やすこと」。自分は将来のためにたくさんの方に興味を持って、依存先を増やしていきたい。
	精神科	ネット依存	1年生教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が落ち込んでいるときほど、依存しやすいと学んだ。 ・ゲームやネットに依存しないためには、ゲームやネット以外にも楽しめることを見つけることが大切だということがわかった。
6 高等学校	産婦人科	性・いのち	全校生	<ul style="list-style-type: none"> ・「性」は恥ずかしいことではなくコミュニケーションの1つであることを知り、お互いに良い関係を築いていけるように合意を取り、正しい知識を身に付けたいと思った。「助けて」と言える人になりたいし、「助けて」を言いやすい環境を作っていきたい。
	緩和医療科	がん教育	全校生	<ul style="list-style-type: none"> ・たばこと食生活ががんの原因の7割を占めると知り、すぐに家族に話して禁煙をすすめたかった。 ・自分自身や大切な人が残りわずかしが生きられない状況になった時、一人ひとりが大切にしたいと思うことは様々で、そこにできる限り寄り添える人でありたいと思った。
8 特別支援学校	小児科	肥満と生活習慣	保護者教職員	<ul style="list-style-type: none"> ・肥満が引き起こす病気が思っていた以上に多く、とても驚いた。これからもっと厳しく脱肥満に取り組みたい。(保護者) ・血液検査をする機会もあまりなく、生活習慣病のリスクが怖いと感じた。ジュースを減らして、水・麦茶などを増やしたい。(保護者) ・肥満は社会全体の問題という言葉が印象に残った。子どもたちが楽しみながら体を動かせるような習慣をつくっていききたいと感じた。(教職員)

令和6年度 子どもの健康づくり連携事業（専門医の派遣）報告書より

<h3>健康課題の解決について</h3> <p>■ 有効 ■ 有効でない</p>  <p>0% 有効 100% 100%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・専門医から正しい知識や最新の情報をわかりやすく説明していただくことで、より充実した学習にすることができた。自分や家族の生涯にわたる健康について自分事として考えることができた。 ・児童の今現在に直結する内容で、児童がそれぞれ自分ごととして内容を受け止め、自分の考えを持つことができていた。また、命の尊さを改めて学び、自分や友達を大切に意識の向上につながった。 ・産婦人科医師としての経験や実際に起こった事例から、自分と自分の未来を守るための内容には生徒も真剣に聞き入り、自分の事として受け止められた。 ・普段話を伺う機会のない専門的な立場の医師によりお話していただくことで、児童だけではなく保護者も興味深く聞き入っていた。そのため、児童が自分ごととして捉え、これからの健康課題の解決に向かうきっかけになった。 ・がんに関わる幅広い知識を教えていただくとともに、自分自身や周囲の人々の多様な価値観を尊重し、寄り添い合いながら生きていくことの大切さを再確認する貴重な機会となった。 ・講演を受けている生徒の態度から真剣な様子が伺えた。講演後、全生徒に感想文を書いてもらったが、自分の行動についての対処の仕方や自他の健康を大切にすることが記入されていた。
<h3>保健教育における校内連携について</h3> <p>■ 有効 ■ 有効でない</p>  <p>0% 有効 100% 100%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健年間計画に位置付けて、役割分担することによって校内体制の充実を図ることができた。 ・児童生徒の実態やお話していただきたいことについて、事前に校内で情報共有ができた。会場の準備や事前アンケートなど、教職員で連携して実施できた。 ・学校全体で3年間を通した「いのちの教育」に位置づけて、自他の命を守り、よりよく生きるための方法や考え方を外部講師の方々から計画的に学ぶことができた。今回の講演は、他の課題をさまざまな角度から考えることのできる内容で生徒にとって大変有効であった。 ・保健教育の柱として、外部講師を招いた生き方教室を教育課程に位置付けている。学校全体で生徒の実態を把握し、外部講師との事前打ち合わせに活かしている。 ・年度初めに計画を立て、会場準備、保健委員会の生徒を巻き込んだ運営など、担当者を中心に教職員で協力して実施できた。 ・外部講師による性教育の有効性を校内計画に位置付け、どの学年でも系統的に命についての学びができるよう、この事業を通じ、推進の良い機会となった。 ・指導部会だけではなく、学級担任も含め組織的に取り組むことができた。また、今回はPTAとも連携して取り組むことができ、これからも引き続き連携して進めていきたい。 ・前年度に生徒保健部で生徒の実態や健康課題を共有し、テーマを設定することができた。また、科目保健におけるがんに関わる学びをさらに深めることができた。 ・科目保健の実施内容や指導について専門医にお知らせし、講話をどのように進めていったらよいか連携して実施できた。学校保健年間計画に基づき、保健部を中心に各学年・各分掌と連携して実施できた。
<h3>校外の関係機関等との連携について</h3> <p>■ 有効 ■ 有効でない</p>  <p>0% 有効 100% 100%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・専門医の立場からの実際の医療現場での話は、普段なかなか聞く機会がなく、児童は大変興味をもって真剣に聞いている様子が見られた。 ・専門的な知見からお話を聞くことができ、大変よかった。また、現在の山形の状況や医療分野の現状を教えていただいた。内容が具体的であり、妊娠や中絶、性感染症やDVなどの問題が身近なものと感じられたと思う。 ・個別のケースを専門医の先生に相談したところ、スムーズに医療につながることができ、その子の生活が改善され事例が好転した。 ・事前の打ち合わせやアンケート等の連絡は、メールを通してスムーズに行うことができた。専門医として、子どもたちに正しい知識を伝えてくださり大変勉強になった。また、子どもの健康課題について相談した際には医療的な立場から丁寧にアドバイスをしていただいた。 ・専門医による講演は、揺るぎない正確な知識を与えることができ、とても効果的である。また、生徒にとって、家族や学校以外にも、性に関する悩みを相談できる医療者や相談機関が身近にあることが伝わったと思う。 ・事前アンケートを実施し、その結果と児童の実態を専門医と養護教諭、担任間で連携・共有することで、学びが深まるような実態に即した内容をご指導いただいた。